順位	氏名（議席）	発言の要旨
2	新家 大輔（9）	<p>1. バセドウ病の啓発・早期発見について</p> <p>バセドウ病は、免疫異常により自己抗体が生じることで発症する甲状腺機能亢進症で、近年、有病率や発症率、患者数に関する情報がより詳細に把握されるようになりました。</p> <p>この病気は、甲状腺ホルモンが過剰に分泌されることで、全身の代謝が異常に高まり、動悸や発汗、体重減少、疲労感、手の震え、不眠など、日常生活に影響を及ぼす様々な症状が現れるのが特徴です。さらに、眼球が突出する眼症など、外見に変化が現れることもあり、患者の身体的・精神的な負担は軽いものではありません。放置すれば心不全や骨粗鬆症、精神的不調などを引き起こすリスクもあり、決して見過ごせない病気です。</p> <p>一方で、適切な治療を受けることで、病状をコントロールしながら通常の生活を送ることも可能な病気でもあります。そのためには、できるだけ早くバセドウ病の初期症状に気づき、専門の医療機関で診断と治療を受けることが非常に重要となります。</p> <p>ただし、バセドウ病の初期症状は一見すると、疲れやすい、眠れない、イライラするなど、現代人によくある体調不良と似ており、自分でも病気と気づかずに過ごしてしまうことが少なくありません。また、甲状腺疾患に対する一般的な認知度はまだ高いとは言えず、特に若年層では病気そのものの存在を知らないという人も多く見受けられます。</p> <p>このような背景から、バセドウ病について正しい知識を持ち、日頃から自身の体の変化に目を向けることがとても大切になります。少しでも早く症状に気づくことが重症化を防ぐ第一歩となります。</p> <p>今回は、バセドウ病の早期発見の重要性に焦点を当て、どのような症状に注意すべきか、また、早期発見・診断につながる啓発活動の在り方について、幾つかの視点から考えたいと思い、以下質問します。</p> <p>(1) 本市のバセドウ病の患者数を把握するため、どのような取組を行っているのか伺います。</p> <p>(2) 広報紙やウェブサイト、SNSを活用したバセドウ病の情報発信や啓発資料の配布について、現状を伺います。</p> <p>(3) バセドウ病は早期発見により治療効果が高まるため、本市の健康診断における甲状腺機能検査の実施状況と、今後の健診体制強化の方針について伺います。</p> <p>(4) 病気の早期発見に向け、健診の場面でAIを活用する考えはあるか伺います。</p>